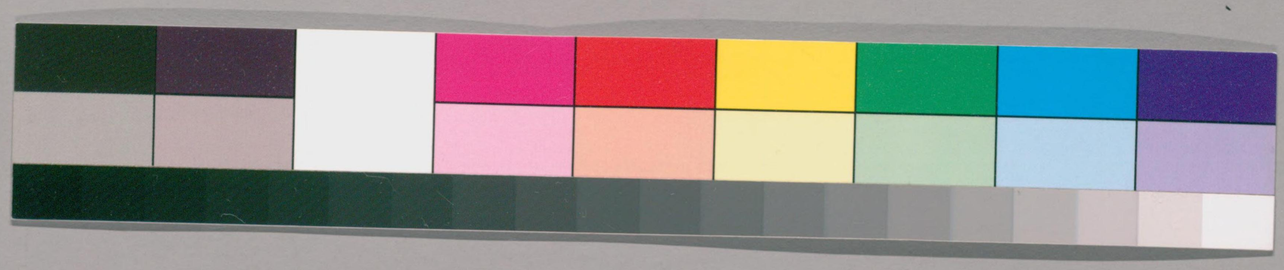


857
117

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

857-117

源氏廿六歩の三四月くるまち

やよひのもちけかあまりのれほひ。蛍の御前の有様
つねよりことにけうして。よほふもれのいろ。鳥乃
声。ほかれさとよはまるふりぬまやと。先づしきう
えしきも。山のこぶち。ちりぬ両のまたり。色まさる
うけの気色ちぐ。ひうさ人ぐのもけかま心もとなく
もふべかめるに。かくめいるうふまけくるを給けるい
そぎさうぞうをめて。おろしもじめさせ給日も。
うるげうされ人めして。来のがくをしろ。見こゝろ
上遊ぶちぐ。おまるに来ぬへる。中宮此比里におりし
ますかれ蛍まけそのもともげまし罪しまへりし。
れへりも。しばらくやとおぼし。たとぐの恵も。いうで

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

この菜のあり。(私好ニ)ぬらんぞさせんとおぼしのたまへど。
けいでなくて。うるらうまもひけり。菜をもてあそ
びなべさなるゆゑ。(私好ノ女ぞうこ)けうさ女房たちの。抱めぞし。忍
べさ紙。舟よのをなみて。(私好ノ方ノ池ニ)これこのいけも。(紫)こなるに
とをしかはしなさをなへる紙。ちいさき山を
べそのをさまこをられど。その山のさ紙よりこぞ
まひて。ひんがしのけりもどれに。(紫ノ方)こなるのけうさ
人ぞあつめさをなふ。(まうどうげさ)誇頭鶯首をからのよそひに。
とくしうしつらひて。かぢとりさすまとらせん。
これこづらゆひて。もろこしぐをて。ぐるおほさ
なる池の中よさし出されぞ。雨ことのしらぬ風に

ゆ工

きたらん心ちして。衣におもしろくこなるもぬ女房
などはせふ。中嶋(なかじま)のいりえのいもかげにさしよをて
これがもうなさいしのたくずまひも。そこぐ急にかい
たらんやうなり。こなるなるなるにあひたる猪だ。
ましきをひさけるをうにおまへのるにはもうぐ
とこやられて。実をましたる柳枝をたれたる。菜も
えもいもぬ匂ひをちらしたり。ほかはさるまもしぎ
たる猪も。今さうりにほく急こらうをめぐれる菊の
いろも。こまやかにひらけゆきさるまして池の
水にかげをうけしたるやまぶき。岸よりこぼれて。
いとじこささうなり。こづらりだのつぐひをもなれど

あそびけ、ほそき枝だをとらひてとびちぶとしの
波のあやまもんをまじへうちなど、もれてゐやう
まもりさとらまほしさ、まことまなのえもくぶ
いけべう却もひけ、日をくらん
女房衣ノ前は[illegible]
風少けぞ浪の音さへ色こそてこやなまこそ
景やまぶさのさき
日 雲の池やみぞのうもせまかんさしの
やまぶさそこもまほへる
日 亀の上の山もこぶねじゆのうちり老
きぬ名をばこそまのこえん
日 雲の日のうらくまさしてけ舟をさほさい

ウ三

常も菜ぞちりけるなどやうのもちなきことに
もを我こころくまいひまして、けるもん
らん里もけまれぬべうけるきへぞのころをうけ
すまことしきもなるあの面まちる者

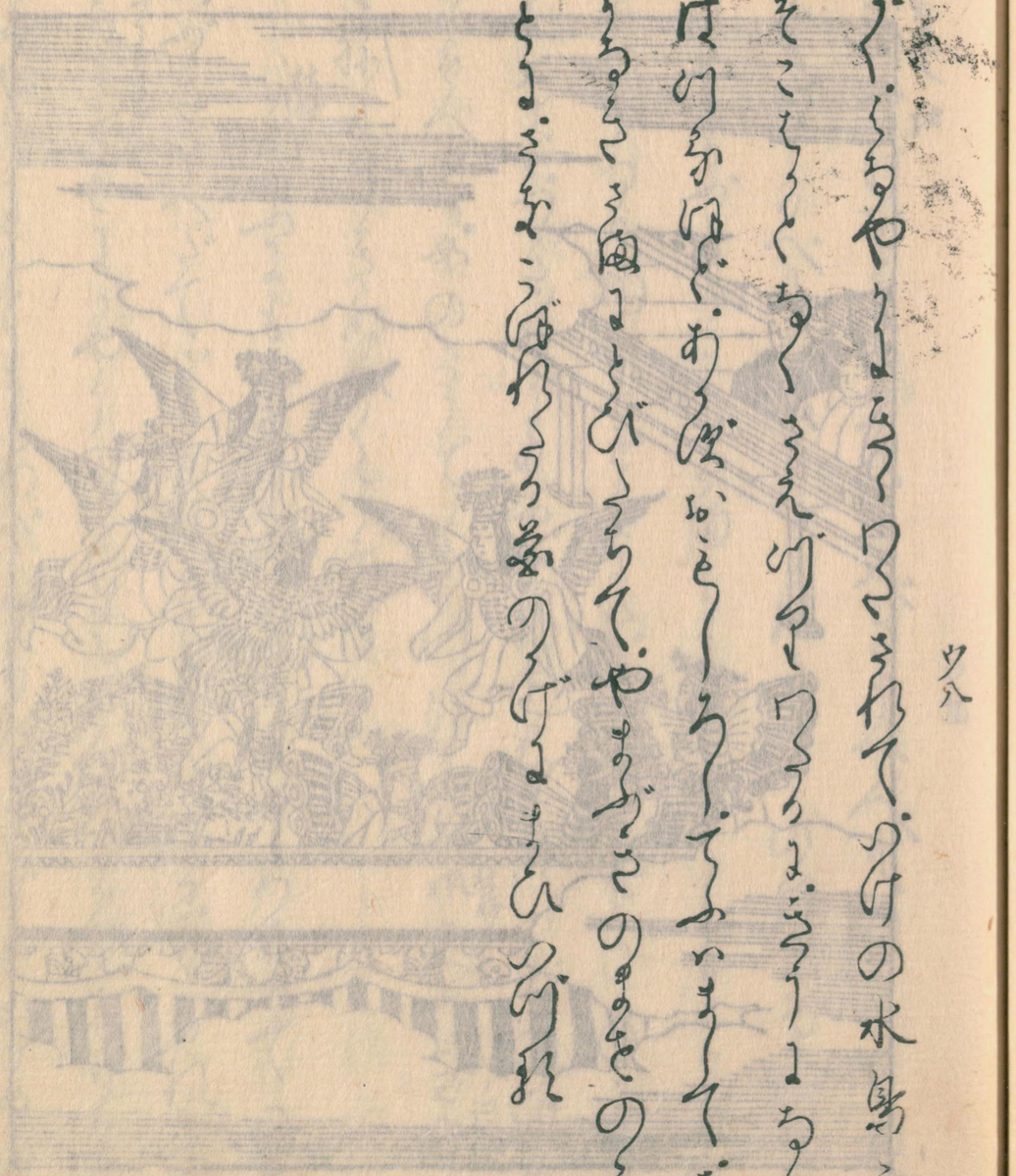
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-117

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用



出たるはいと哀にあるあめさそこも。まざとひとぐり
あるどもうけされず。おまへにはこれらうをがく屋の
さ面にして。かりにあくらどもをめしたりまちたべ
どもみくしのもとによりて。おれどもこそまつる。
ぎやうかう
行香のへぐとりつぎて。おりにくさんさせぬふ。
けきうそこ。夜の中(夕)拍の夜してきてあへり
紫ぞのこてふをさんやしたる菊に秋まつ
むしはうとくるらん。秋好ん 寒かれもみぢのれかへり成
かりと。はし忍ぶて。けしんず。吹日の秋好ゆかう 夜遊もげに
夜の夜はえ秋好ゆかとさを給まじかりかりと。菊におれ
つくさくしあへり。地 雪のうちくうまるねに。鳥出

ウ八

がくしあるやうにまくはれて。けけの水鳥を。
そこたるとあくさえげるはつるにさうにあり
はけ家はどおかしろしてふはまして。
うるさ面にとびたちて。やまぶさのまをのも
とに。さなこうばれたる菊のうげにまひいけれ

まことやそれこそものの(数多のあやまち過ぎにしことの)あやをもわきまえどもをそのことをもそこそこにそれがむつかしうおぼえられありしかばかくやうのそこなはれあるべきことをやうにすぐしのへがさまざまの人をもみけちらひちさやかにそこなんごとなきうちにもまれうちにもおやおさなくもいつきあがるよりうへにさうらふ人のふかうの垂(れむ)のうちにかしづかれ封(堅)のうちにこもりゐたるさまもまたそことも

つけたるさうぞとは。こころ孫たうもてあひたる。
中々心ぶけやうまもあり。まことさてますれぬるは。
あるりのとぶくはあらん。もれくたりぶりれなをぶり
ごとは。くちとうこころえたるも。さしぐでありぬべ
りけるのちのあるんとありぬべきまぎあり。すべて
女のもれつゝきぎ。こころのまゝに。もれく衣もきり
がれけり。おしきことをもこしくんあるん。そ君
けもりあぢきあるべき氏。宮大将ひげぐろはおほなくあるに
ざりごと氏。うち出ぬべきことあらず。又あまり
ものゝほどきゝぬやうあるんも。れありさ面にこが
へりこゝきましより志もはこころごしのをもむきに

ウ十三

きるがひて。おきれをもけきこまへらうをもかぞへ
ぬへあるどきてぬへば。君（むこ）はうちそむきてなきする。
そだめいとおしげあり。あでしこのほそあるがに
此ごろの笠のいろあるれこうちき。おもひけぢかう
いまめさて。もてあしあるどもさはいへど。ねたりび
ぬへりしあぞりこそ。こゝぶありに。おほとりあるか
こまのこゝしぬひかれ。へのありさ面をこゝ志
ぬふまくに。いとさ面ようあるよびかに。けさうあるども
心きてもてつけぬへれば。いとゞあるぬ所あるゝなる
やうようつくしげあり。こと人（涙ム）とこれさんも。いと
くちおしかるべうおぼさる。右をもうち思ゝけく

こなりて（左を）おやと（源を）男くんまはまげなうつくおかし
ますめり。さしあるべきくんかしもおりひめで
くしうしとせひねうり。（左を詞）さしくは人志れきうそこ
などは男しつくふること侍らず。ささぐくもしろし
めしけんじくろ。こけよけもひきかへしもし
くなめきくえんもいかゞとそ。れ文ばかりさりいれ
などし侍めれど。れかへりは。さしくり（源）こそしさせ
ぬふ打ぐりなん。それをぐまくらしいことまおぼ
いくろとこそ也。（源詞）さてこれつやうまむまぼく進
くろいくがぞ。いといくうかいくろくしきれと。ぼく
ゑこそけんどれが。（左を詞）かれいしうねくとぐめて

ゟ十四

まりまけるまこそ。内のおほ（口）いとの中（柏木）ねの。この
さふふえろこを。もとよりこしまへりける
つくへまて侍けり。まぐこいるくへも侍らざりしま
こそと男ゆれば。（源詞）いとらうこきことかれげうなり
せかれぬしくちなが。いかゞいとさはちしくなあん。
公（くぶ）つといへど。この人（柏木）のおぼくまかなしぎしも
ぬらぶまじこそおほかれ。さう中まこも。いとしげ
まりくろ人なり。をのづ（むと柏木と兄弟ノ子ニ云）しひあたする也もこそ
あれ。けちえんまはあくでこそ。いひまざくはさめこ
所ありふこがきかれなど。さん（地）まもうちをさ給ひず
（源詞）ううなまやうやと男ゆるをも。おぼ（むノ）を所やあくんと

ゐへがらましうて此いとへきこえんともおぼし給
ちず。いとまかくしきもうくておぼして。おまゝ
ごともせひ志り侍らざりけるほどより。おやなどに
こゝぬまれまゐらひ侍て。ともかくもせふゐへられず
なんときこえ給さ面のいとおいらかなれが。げまと
おぼいて。さらに世のことひのこゝろもおやをそれとおぼ
いてなろかなるゐ心ざしのほどもこゝあらりしまて
給てんやなど。うちかたらひ給。おぼ地とさ面のことに
まばゆかれぞえうちいで給ひず。気色あることばく。
ときぐまぎゐへど。こしらぬさ面なれが。すぐろま
うちなげかれて。ひたり給。おまへちかさくれたけの

いとひやかまおひたちてうちなびく三面のなろ
りしきまゝ。こちとまりたまふて
まきのうちまねふくうへしたけのこれ
とのがらくまやおひひろべこさ。おもへがうしら給し
べいことぞかしとこゝすをひきあげて笑しゐへぞ。
ねざり出て
今さらまいかなるん世かひ行のおひもじめ
けんねをがこゞひん。中こゝまこそ侍らめとこゝて
給を。いと哀と思しかり。さらにこゝろのうちまは
さもおもはずかし。いかなるんおりこゝしいでんと
すらんとこゝろもとなく哀なれど。これおとゞの

れころぞ人のいとありがたき事なれ。おやとさしも
もとより[ゆ]ゑなれ給はぬハ。そうしもこ海やか
ならずやと。芳抽がたりをこゝろよ。やうく人の
ありさ海。世中のあるやうをこゝろ給へぞ。いとつく
ましう。こゝろとしられたてまつらんことは。かゝる
海べうおぼ上。[源氏詞]夜もいとゞ[むと]らうたしとせひきて
ゆふ[雲]うへにもかたりゆふ。あやしうなりしき
人[む]のありさ海にもあるかれ。彼いまし人の[夕ぼ]も。おまり
もうけどころなくぞありし。この[む]君ももれてあり
さ海もこしつとめべく。けぢうさころざ海そひて。
うしろめたかしぞこそこゝれなどは先ゆふ[雲]ぐ

ましもおぼすまじき。れ心ざ海をこゝろ[ウ十七]りゆへれば
そしらりて。[詞]抱のこ[ひ]ろえけべくは。もれしこゝろ
めるをこゝろなくしもうちとけ。これこゝろて給へん
こそ。心ぐるしかれとのゆへぞ。[源詞]なぐこれもしげ
なくやはあるべきとこゝろしこゝろまへば。[雲詞]いでやまれ
にても。まゝ志のびがたう。もれおもりしきありく
ありし。れ心ざ海の。おもひいでらるゝ。ふしぐなく
やもとは。思こそ罪しゆへば。[源氏]あれ心どゝおぼいて。
[詞]うたても。そしらうれ。いとこゝろしらずしもあらじ
とて。いづらりしかれが。のゆひさして。心のうちに。人の
うをしもうらまふにも。いかゞもあべからんと

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

がたさまなぐさむことなくて、すぎつるうし所を、
かくてこなりは、夢まやとのこゝちひなすを、なる紙
えしそ思ぶまじかれ、覚しうとむなよとて、此手紙
としへたまへれば、女(むん)かやうにもなしひ、ゝ海をざる
けるに、いとうたてあげゆれど、あげとうなるさ海
まてもれしのふ

袖(む)の紙よそふるかたくまたちだれのこゝろ人
もなく女もそすれ、むつしとしひて、うつぶし
なへるさ海、いうじ(添ん)うなつしう、まつさのつぶくと
こゝろまへるこなり、ちぎつきのこまやかようけ
ちしげなるまなくなる物しひそふこちし

ウ十九

なひて、かふはもてこしもふと罪しもしをなひなる、
女(むん)は心うくいつるまをんとあげしてゝ、つなくなく気
色もしられかれど、なるかくかうとましとは
あげひたるいとうくもてうくして、人まとがめたる
べくもあらぬ心のほどぞよさりげなくてをもて
かくしなへ、おさくもしひ罪しさをぬ心ざしまなる
そふべかれば世まなぐひあるまじき心ちなんするを、
はをとづれ罪ゆる人ぞまはあげしおとすべくやは
あるいとうふるさ心ある人は世まあるがなかな
べさつぎなれば、うしろめたくのこゝそとの給い(比)とさか
しらなるれおや心なりかしまはやこて風のたけま

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

おぼしくへしつゝ人もあやしとちゆべくれば
いとうゑもふるさでいでゐひぬ。おもひうとこゝ給
まぐいとこゝろうくこそあるべくれよその人も
うゐほれぐしくへあらぬもれぞよかぎりなく。そ
こゐしらぬ心ざしなれば。ひとれとがむべきゝ海にハ
よもあらじ。ふぐせかしこひしきなぐさめに
もうきことも思ひんおもひこゝろ。いし屋
などしのへと。いとこゝ海やうにきこしのへど。紙にも
あらぬさ海して。いとゞうしとおぼひれば。いとさぞ
りにハこゝそまつらぬ此心ざへを。いとこゝにもなくも
うくこゝのべかあるかれとおぼさのひて。ゆめ気色

なくをとそいでゐひぬ。如君もれとしこそすぐし
のひまゝるほどなれ。世中をしり給ひぬ中にも。
まこしうちよなれたる人のありさ海をぞよこゝしり
給ひしが。これよりけぢうさ海にもおぼしよらず。
こひのほかにもありけり世かれと。おぼしさゝに。
いとかしこきもあしかれば。人ぞ此心ちなやましげに
こゝのみとまて。ちゝぎ男も。とれ此かしこれ
こまやかにぞけなくもおりしますかれ。まことの
此おやとこゝ也とも。さらにかぎりおぼしよらぬ
ことなくも。まてなしこそ給いじなど。芳ちなども
志のびてきこゆるにつけて。いとゞおもちぐりし心

べきさちきれ心のありさ海をうとましうさひきて給
まも。身ぞ心うりけり。まこのあしきれ文とくあるを。
おやましがりてかしまへれど。人ぐれすぐるなど
まりてれかへりとくと写ゆれば。しぶくまこまふ。
しろきかこのうまべいおいらかますくしきま。
いとめでこうかへりさぐひあるりしれるしき
こそつきしもつきれぐこう。いかま人見なりけん
うちとけてねもこぬ扱をつ草のとあり
がかまむすぼくあらん。おさなくこそものしまひ
それとさすがまおやがりこうれ云紫も。いとまくし
とこなてれかへりことこそしざらんも。人めあやし

ウ廿三終

それば。かくこうちのくまかこうり。こぐうけ
こ海まりぬ。こぐるとこうちのあしう侍れば。罪しさせ
ぬとのこあるまかやうのかしきは。さすがますく
まかるりとほくおこそ。うしこ所ある心ちしまふを
しこそあるれ心れ。いろまむまひてのちは。おほぐれ
まけのとおもきをこうことなく。むつしくきこし
のふことおほれば。いとぐ所きさ心ぢして。をきぶ
なきれしひつきて。いとなやましうさへしまふ。
かくてことの心しる人はすくなうてうときもしる
しきもむげのおやぎ海まさひ罪しこうをかうやう
のかしきれまりいでば。いこじう人ひろれまうさ

源氏廿六 ホタルの巻 三月のころ

今いくをもくくさ行くよりぬ
ぬしをぬめられ(ぬ)貴種あ
るくぐさ面ぐよりて
まり・ぐぐよくうぐで・あ
給ふいの姫君(ひめ)そいとおく
そひて・うるをんとぬし
ぬうう一さ面ぐ見ぬぐ
教(をしへ)ぬうて・すぐうよ・うけてもく人のあ
ともちるものぬ心(こころ)ひとつぬよ
うとぬう一よくそひとそ
まうれぐとひれぬ(ば)と面うぐ面ぐ
あ

みるよもあるべうれ(ば)ちいなと
そもまゐくくさ(れ)心(こころ)ぐ
ら・まて・いとあはつけ(か)
と・ぐろぐやすげ(か)ぬ
と(ば)れ(ば)色・まてもれ(ば)
いとわんぐろよさてゆ
おと(ば)ぶのれゆう一をさて
字て・滅(きえ)のすぢをぐもう一ぬ
ぬりうちうくさてまふ

源氏物語 巻二十六 蛍 并立

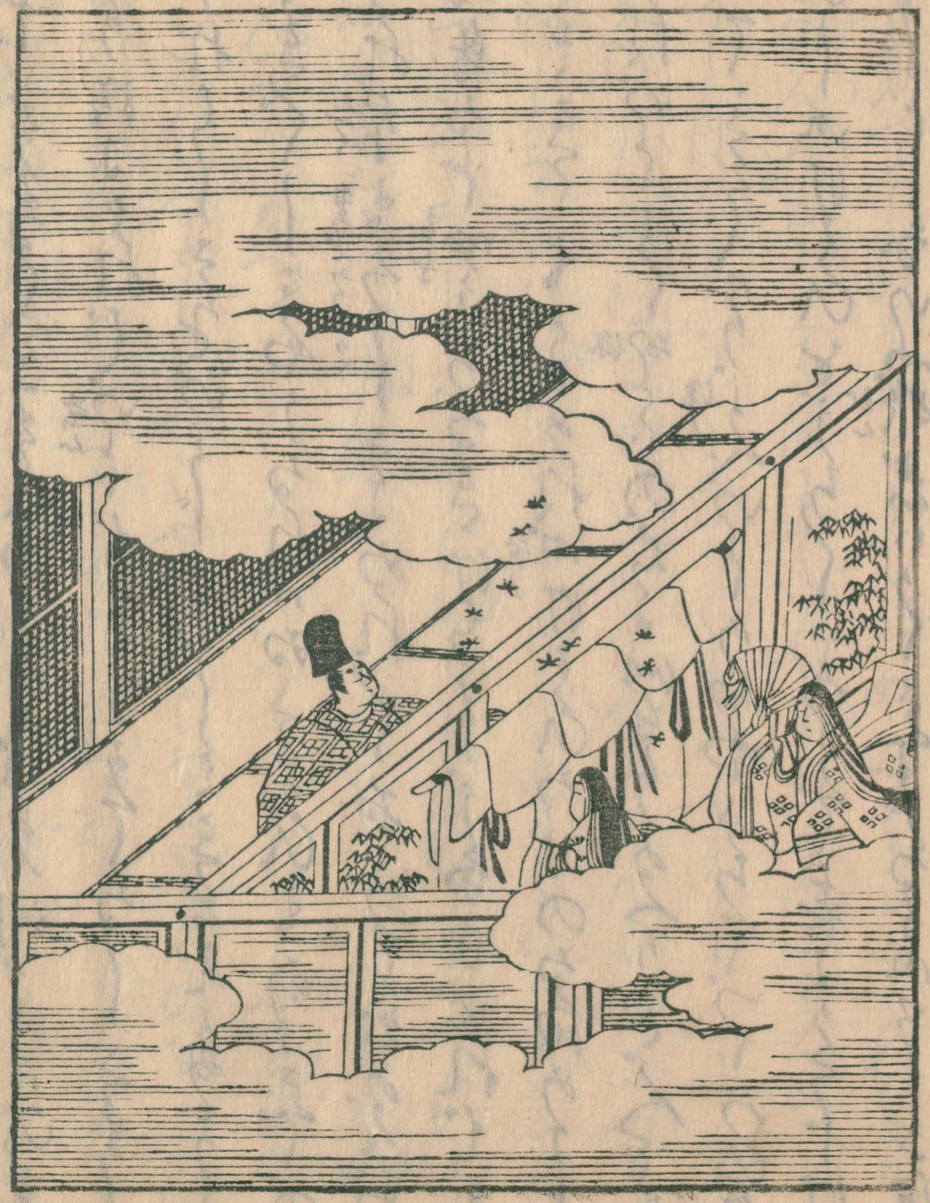
今いくをもくくさ行くよりぬ
ぬしをぬめられ貴種あ
るくぐさ面ぐよりて
まり・ぐぐよくうぐで・あ
給ふいの姫君そいとおく
そひて・うるをんとぬし
ぬうう一さ面ぐ見ぬぐ
教をしへぬうて・すぐうよ・うけてもく人のあ
ともちるものぬ心ひとつぬよ
うとぬう一よくそひとそ
まうれぐとひれぬと面うぐ面ぐ
あ

みるよもあるべうれちいなと
そもまゐくくされ心ぐら
ら・まて・いとあはつけかと
と・ぐろぐやすげぬ
とれ色・まてもれぬさ面
いとわんぐろよさてゆ
おとぶのれゆう一をさて
字て滅のすぢをぐもう一ぬ
ぬりうちうくさてまふ

源氏物語 巻二十六 蛍 并立

今いくをもくくさ行くよりぬ
ぬしをぬめられ貴種あ
るくぐさ面ぐよりて
まり・ぐぐよくうぐで・あ
給ふいの姫君そいとおく
そひて・うるをんとぬし
ぬうう一さ面ぐ見ぬぐ
教をしへぬうて・すぐうよ・うけてもく人のあ
ともちるものぬ心ひとつぬよ
うとぬう一よくそひとそ
まうれぐとひれぬと面うぐ面ぐ
あ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

なぐさまくさまくしなして此身げうらはひさ
いり給はれば、いとくるまてなしうまふ
うれもしさをいうじくうしきえあまふ。
すきぐしこさやうなればねうまひもあうさで、の
それ雫もくるしさまぬれく衣ふく出ぬひぬ。
時鳥など必うちなきけるしうなさなれどえ
しそさてもとぐめれ此けるひなどのな夜めし
さは、いとよくおとぐの君は此なりぬへりと、人ども
めでさうしなり。よべいとめなやごちてづくろひ給
ひし此けるひをうちくはしてで、衣ようしけ
なしとこないふ。姫君はうくさすがなられなしさ。

井七

けが身づくのうさぞかし。おやなどはしられなり。
世の人めさうさ夜まで、かやうなる此心ぞへなる
ましかばなど、いとまげなくもあらまし。人まくぬ
負積こそつねは世がうりまやなるんと、おさふし
おぼしなやむ。さるもまうとはゆしげなさ夜
まは、おしなしそてじと、おとぐはおぼしなり。此さる
此心ぐをなれば、伊賀などもいとうるもしらや
ちひ罪しぬへることはふれつ、こぐなしぶさえ
うごうしなどしぬへど、やんごとなきかさのをうび
なさはまづらりしそて、おりうちあらりしさえ
給はぬを、この君は人の此さ夜もけぢく、今めさ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

世はなるのあやめもしらぬことなれど、舎人ども
さへえんなるさうぞくをつくして、身をなげたるて
まどいしなどとこゝろぞおしかりかの南の町も
ともしてもなぐとあれば、あるくまもかやうまも
けるき人ぞいとなり、打毬楽納蘇利などあそびて、
うちまけのらんさうどものしたるもよるへたてて、
何ぞもしらず成たてぬ、とねりどもの緑たれぐ給
いろいろくかけて、人どこれあがれのひぬ、おとゞいこ
なるよれとのでもりぬ、地ぐうなどこそしのひて、
共事のこやの、人よりいこまなくまれしのふれ、
うちなどいまがれねど、ようい氣色などよしある

井土

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

そのこ夜もすさめぬ事と名まことて家行の
あやめにかやひきつるとおほさるに罪しぬふなるに
どうのことにもあしほど衰とおぼしたる
よほどりにかげをなしづるワンご夜もいけり
あやめにひきワるべき。あいたちなきけことも
なりや。朝夕のへだてあるやうなれどうくて見
なりいろやすくこそあれと。こゝろれどなれど。
のどやかにおいする人ざ夜なれば。しげまりて罪し
なしぬふ。ゆかどばゆづり罪しなて。此本帳引へだてて
おほとのごもる。けぢかくなどあしんすぢをばいと
にげなるべきことにおもひもなれもてそそ

ぬべきれば。あるがちにもきて給ひず。なが夜例の
年よりもいたくして。たるくかたなるつれぐ
なれば。此かたぐ詮地説などのすさひにて。おしし
くしぬふ。おしのれかたに。さやうのことなりも
よしありてしなしぬひて。姫君のれかたになりぬふ。
西のたいには。ましてめづらしく。常に給ことのすぢ
なれば。明暮かさにいとなきおかず。つきなかしぬ
ワン人あまたあり。さ夜ぐにめづらしかるひとの
うへなどを。ましてにや。詠まや。いひあけめたる
中にも。ワが省様のやうなるいなりなりとこゝぬふ。
しこうしの姫君のこしあたりけんありは。さうもれ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

れどさしもあらじやとの給へど、げにいけるを
なれたる人や、さ海ぐまさしつゝ侍らん、あぐいと
まことのことこそおもひまへられとて、硯を
とりやすまへば、こちなくもさておとしてげるが、
御代より世まあることをさしをきけるなるを、因
本記などいふにそばぞし、これらまそこちらく
しきくちしきことはあらめとて、けふひ給、その人をい
うへとて、ありのまゝまいひ出ることこそなけれ、
よきもあしきも世まふる人の有様のこゝろまもあら
ど、すまもあまることを、後の世まもいひつゝへさせ
まほしきかしぐを、心まこめざこそて、いひをさ

ちじめたるなり、よさき海まいふとてはよさことの
恨えり出て、人まもたるがりんとてはまるあしきさ
まれめづらしきことをとりあつめたる、これらぐ
まつけたる、此世の御のことなるぞかし、人のこゝろどの
ざえ川くりやうもたる、おなじやまとれ国のこと
なれど、昔今のまゝもたるべし、ふるさことあきさ
ことのけぢめこそあらめ、ひたふるまそらごとく
いひたてんもことの心たがひてなんありける、佛の
いとうるはしき心まて、ときをきめる此法も、方便
といふことありて、さとりなるさ物はこゝろしこゝろがふ
疑を亜川べくなん、方木強の中まおほれど、いひ

してかしづきしぞと。親(おや)のきまぎ所人。きひやら
ゐらこそいとをしかれ。げにさいへど。き人のけりひ
よとこゝろハかひあり。おもぐしかし。玄葉志
かぎりまばゆくほめをきこゝろに。きりでこゝろけぎ。
いひ出ることの中に。げにとこゝえきしゆること
なきいとこゝおとりすゝけぎや。きべてよりぬ人に。
いぞ人ほめさせじなと。こゝごこの姫(ひめ)君のてんつれ
あふまじくしよろげに。笑しのこまふ。まゝはゝ乃
もしこゝろなき。昔物語もおほかを心こゝに心づき
なしとおぼ(源ノ)さば。いこじくえりつゝなん。かさとく
の人さを。絵(ゑ)などにもかゝせ給ける。中(タ)将(地)のさゝ給。

こゝろにはけどをくもてなし。異しめへれど。姫(ひめ)君の
内にまはさしもなちさゝ給ハずなりはし給。
目(源ハ)ゞ世の程ハとてもかくてもおなじごとなれど。
なるんにをきひやうに。程こつきさひきこゝぬり
ことゞもこそとりけさてハおぼゆべかれとて。こゝ(ひめ)ぎ(姫)君ノ道
おもてのうちハゆ(タ)をしめへりぶひもん所志
女房の中ハゆるし給ハず。おまこ(源ノ子)おまゝおほぬれたまうら
ひにて。いとやむごとなくかしづき異しめへり。おか(地)
かこの心(タノ)もちゐなども。いと物こしく。まめやかに
もれしめふ君(タ)なれば。うさ(源ノ)ちろやすく笑しゆづれり。
まこ(ひめ)いたけこゝろ。ひゐれあそびなどのけりひのこゝ

れば、かの人のもろともにあそびて、ぞくし志さし
身のまづ志ひ出られれば、ひねなれとれこゝやげ
久へいとよくしまて、おなもくにうちしほられ
なひかり、さも有ぬべきあたりにはぞうなしどとも、
のたまひ、ふるゝはあまたあれど、これこゝかくべくも
志れさず、さるかたにはなどかはこゝざらんと、心とまる里
ぬべきをも志おてなをざりごとに志なして、なる代
かれこゞりの袖をこしなをして志がるとぞふこゝろ
のこゝぞやんごとなきふしにまもとまる里けり、あか
がちにはなどかくづらひまどもぐらかしふるゝに
ゆるしなひもしいべかれどつらしと志ひし

なりくいかで人にもことはりをたてまつらんと、
志ひをさしことはりもれがたくて、さうじこゝぞうり
まは、をろかなるしぬ衣をつくしこをて、なほかたは
いられ思へらず、をうとれ志ぎなどもなまみくし
などのこゝちふことなほかり、其のひめぎこゝ志れ
有様を、右の中将はいとふくなもひしこゝて、いひ
よろこゝりもいとなりれ、かれがこの志をぞうちち
よりかれど、人のうへにてはもどかしこさはぎなり
かりとつれなくいらへてぞもれし給けり、昔乃
ちくおとゞこちの、此なるしひまくしたり、内のおとゞ
は、此子どもとらぐいとなほかりにそのなひいで

出んやとこそしたりなれば、女（詞）ごの人の子は女ことに
おさくなし。うくいかなることとまうあらんなど。（地）この
どろぞおぼしのゆふなるゆゑ

（源氏卅六夕の六月のるゝ事　六条院ノ）
いとあつき日、ひんがしの川をどれまいで（源ノ）のて
すごうぬ。中（夕）ねのさまもさつらひ給。しるさしき所ぐ人
あまるさまひて、まし川（桂河ニ）よりなれるあゆ。ちうき
川（笠義河ニ）のいしがしやうのまれ。おまへまて二あうじて
まいらす。例のち夜のさんぶち（柏木ノ才ニ）。中（夕）ねのれあるを
鶏ひて来りゆへり。さうぐ（源詞）しく。ねつるかりける
おり。よくまれしゆへるかれとて。おほうきまいり。
ひうづめして（水之）。すいもんなどとりぐまさうどき
つくふ風（地）いとよくふけども。日のどうよくまを
なきこの。まし日まなるほど。蝶のこゑなどもいと
くるしげまきゆれば。水（源詞）のうへむとく（無源）なる事ふの

あつかはしさかれ。むしいのつゝいゆるされなんやと
て。うりかしまへり。いとかるころは。おそびなどもす
き雨じく。さすがにかしがたきとそくるしかれ。
こやづくへするわきひとぐ。たへがたかんなかなび
ひもくとゐぬほどよ。そこまてぶまぶれ。このぶ
世まあらんことのすゑし。然づくしく。ねふたさ
めぬべからんこと。(くろ)語て。男をのへ。なまとなくなき
なびまたる心ちして。きけんのこともなげつるしや
などのたまへど。めづらしきことして。うちいてきこ
えん物がたりも。そこ〇バかしこまりたるやうまて。これ
いと涼しきかうらんよ。せちなるとしけてきふしひ給。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

おとゞ娘(ひ)君をすゑしとゝ(か)いでかへとて志のびてかね(柏ノ方を)
待給ならずおてまうできたり。いとかけ星こ夜ほし
げにもへるを。中(タ)将のいとぎほうの人りてゐて
こゑむぎんなありし。この人ぐ(かわ伝法)はこれもふこうなき
なるしなをくもれきもとぐるまどのうちなる
ほども。ほどにもたゞがひて。ゆしくおぼゆべかめ
なことなれば。この家のおぼしうちくのゝぐく
しき程よりは。いと世にすきてことくもうなん
つひもなすべかめる。うたゞもれもとめれど。さすがに
人のすきごといひよろんにつきなしうくて
もれ(ひ)しのへぐ。いでうさやうなるん人のかしきの。

ノ五

かうきあさくともえんなど。さうぐしきまくに
ねがひもしを。ほいなんかなふ心ちしけななど。
さゝめき男ら給。此(ひ)まへ(ゆ)にえぐりがちしき前栽な
どもうへさせ給ひず。なぞしこのいろをとくのへ
たる。からのやまとれまをいとなつしをゆひな
して。されこぐれたるゆふぐへいとうらうる。昔
たちよりて心のまくにもおりたゝぬを。あるぞ(源氏の絵之)たひ
つゝやすしふいうそくどもなりな。心もちゐなども。
たりぐにつけてこそめやもとれ。右中(ミぎの)将(柏)はまして
すゝしきげまりて。心もげうしげさまさるまていう
りぞをとづれきこゆやもしたるくもなさし

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

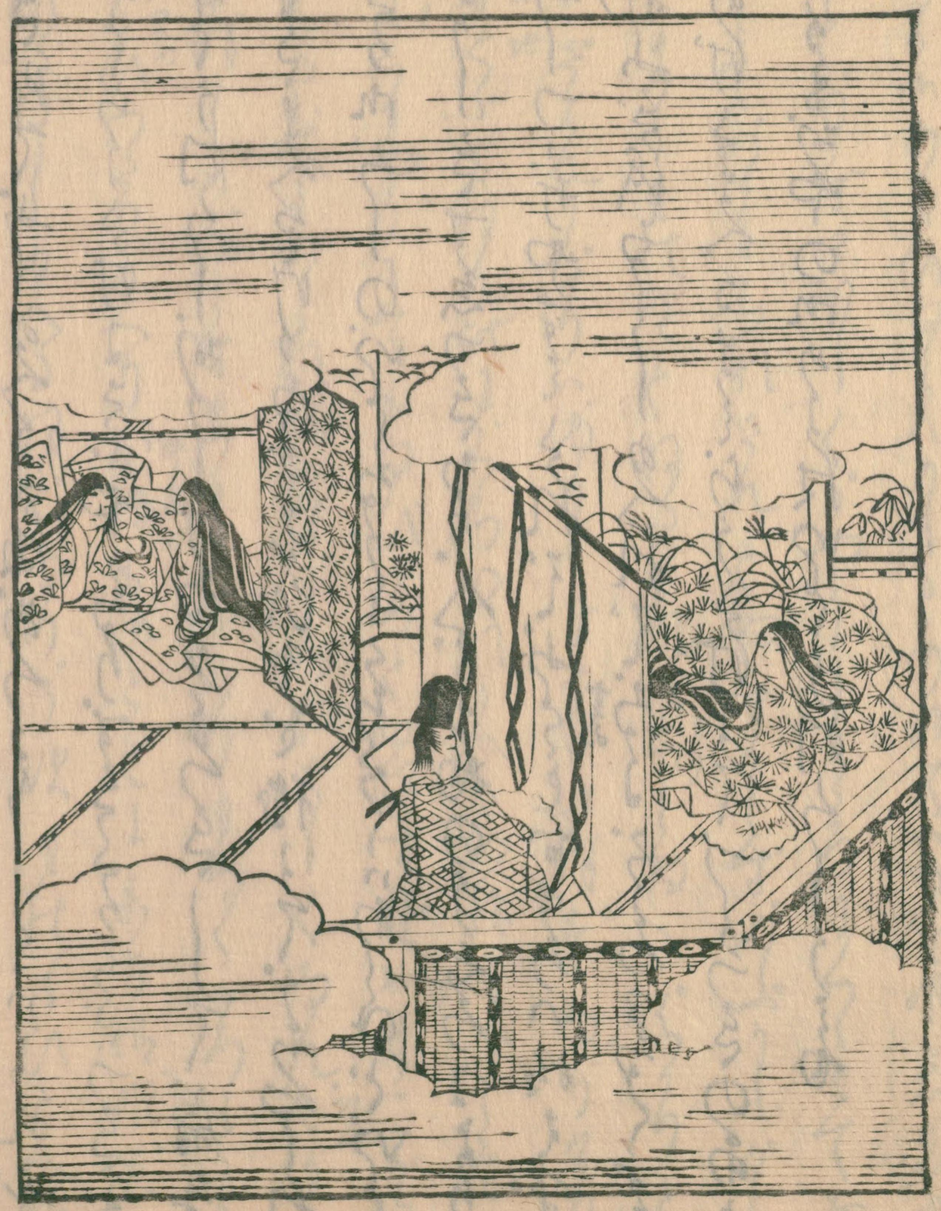
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

あるれあまひあるんしとの給てはおを娘(雲ゐ)悪志れ
ことおかぎ口おしくかやうまろまつてなし
してゆるしれさんとやすしぎゆぶかしがら
せましもれをとねるそれがくしねさぐらりと
こざるんかぎりはゆるしがくくおぼしてありなり
おどぶ(徳地)もねんじまくちいれんさの給たぶこそは
まくるやうまてもあびあとおぼすをおとこがる
ちる更まいられ給ぶぞころやましくあんとかく
おぼしめぐらすまくまゆくりもあくかろうる
そひ(以雲ゐ)ひつりあくりおねも(拍ノ方)れともに乗り給娘(雲ゐ)悪は
ひるましあへるほどあり。う浜もれくひとんを

きぬてふしあへるさ夜あつかましくはこえぜ。
いとらうたげまさぐやかあり。すきろうたぐつきも。
いとうけくしおしげあるもつきして。扇を
もてまへ重けるあがしかひるを枕まて。うちやれ
ろれぐしのいとあがくこちくはあるほどいと
おかしきすゑつきあり。人ぐも袖のうしろまより
こしつて。打やすこえれだ。ふともおどろい給もず。
あ(以)ふぎ紙あしあへれだ。ぢ(雲ゐ)るごろもあく。そ
あげこまへるまこらうたげまて。つゝつきのあう
めるもおやのれめまはいとうけくしうこも

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

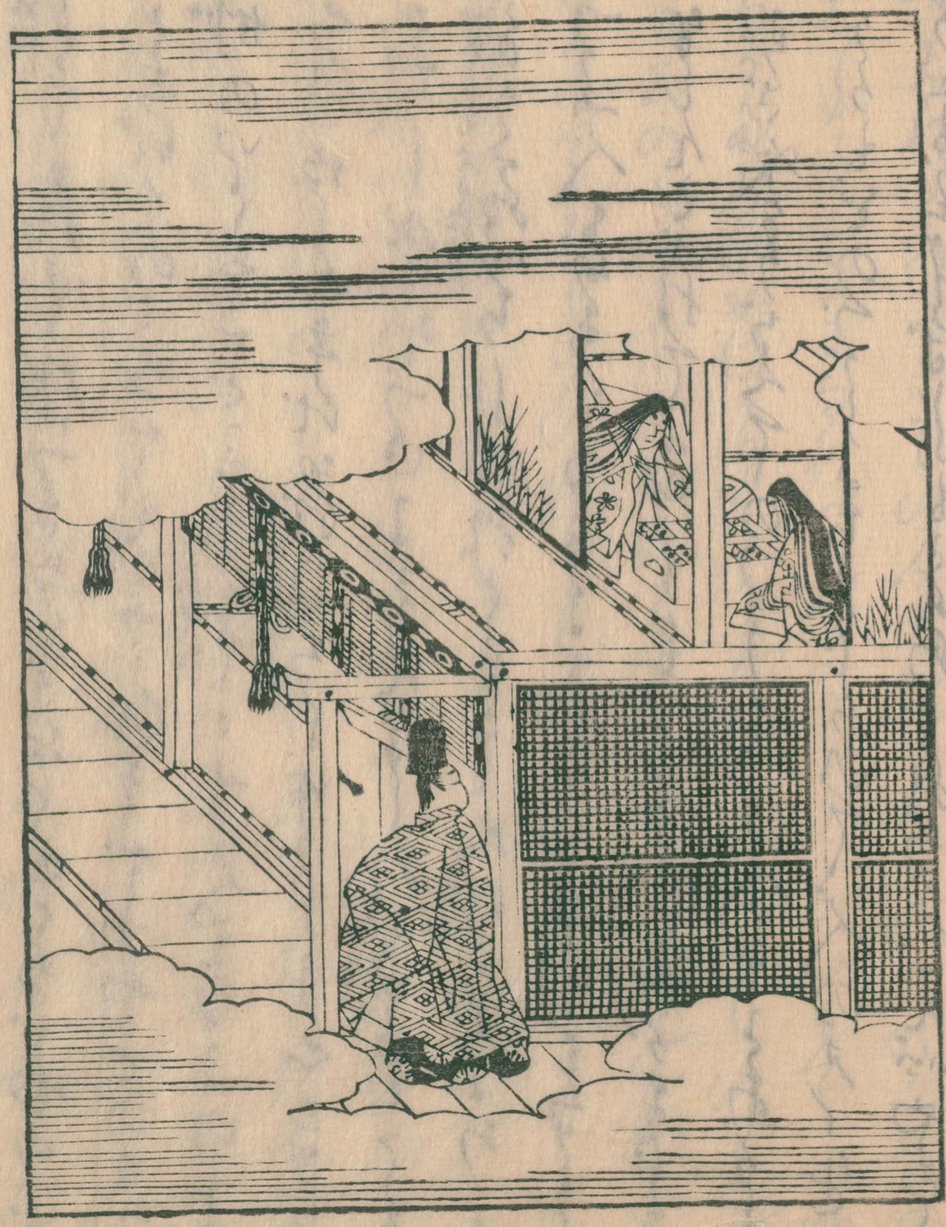
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

しるのなどまこそハ侍しめおさなく侍し時ぞうま
こ母のつねまろしがりなしへ侍し妙法寺
べうだとこのうぶやまゆりけりおへまれとなん
歌侍給へし いかでこのしるどきやめ侍らんと
さはぎたりもいとけうのうろゆく衣なりとこ給
そのけぢかくいりたちたりかんだとこそ何づき
なりかれ ただそのつゝのむくひなりもなしこと
どもりこそ大そうそしりたりつゝまもかぞへためり
うしとのゐて こなぐらしげしげまおもすな
れさ雨まえしなしこそこゝづしけれいかり
たざめて かくあやしきけかひもたゞ○ぞ人

ノ十九

ようをけんと思ひし人ぐもあまるしうぎいひちら
さんことと おもひかへし給抱かし女れの里
まれし給ころ時ぐつたり来りて ひとのかりさ雨
などもこゝろれゆへかしことなりことなき人も
なのづらしへまうじらひさりかるまなれば さても
ありぬかしさりころしてこそ給なんやと
のるまへばいとうれしきことまこそ侍りなれ ただ
いかでもくれかるぐたりかずまへられなしん
ことをなんおそもさめてもさしごろなるごとに紙
ちひゆへつりまもあしずれゆかしぐる侍しが乱な
くゝいたゞきてもづうまつりなんといとよげる

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

関(せき)とやすへさき給つらんとあるん。志られねどもむさし
野といへばかしこかれど。あまかしこくやとて
むがちまて。うしまは。まことやくれまもまいり
えんとせたまへたりは。いとふまはゆかまや給らん。
いでやくあやしきさも。これを所まをとて。まる
もしまかくぞ

草(あは)ワきひたちのうしのいかぐさきいかぞ
あひえん。女この淵浪。あはかはあのと。河(地)をさきしさし
ひとうさゆまいとさうがちまいかれりてのそ乃
すぢともこしぶ。ぐよひたりかきぶ面も。しもじ(志もあるイ)
ながまワりなくよしばえたり。ぐぐりのほどだち

ぶ面ますぢかひて。たつれぬべくゆかをうちゑゑ
つくえて。さすがまいとほそく。ちいさくまさむせしび
て。おぞしこの笠まつけたり。ひき面しまらはし
しもいとなれてきよげなり。い面まいりなりなり
女(こうきでん)れのれかたのぶいもんどころなりまるて。こうき(見るか)
まいらをたまへといふ。しもげ(こうきでんノ)へこしまて。れふ
えとりいろ。小の墓まさふふ。ほうもなるまる
とて。ぶいふの君といふ人もて。寄りて。ひさとさて。れ
ちんをさす。女(こうきでん)れほくゑえて。おせをたまへ家を
中納言(こうきでんノ女ぶり)の君といふ。いとちうさふらひて。そぞく
えかり。いと(中納言君同)いまめしきれ文の気色まも給ふれと。

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

ゆしげまさられば、さうしのまじもえうしられぬ
まやあらん、もとすゑなくもゆかれとてまへり、遊
まうくゆへくしらしぶはうろしとや、まひおと
されなんやとて、うきまへとゆづり給、まて出てこそ
あしの、つうき人ぐは柏おしうて、これうちひぬ
此ゆりこへだ、おしこととのすぢまのまつれ
て侍めれば、さてさせまくとそ、さんじがきめさ
てはいとおしうらんとて、ぐぐ此ふゑめさてうく、
ちうき志ましなきおぼつかなきはうしめしく
ひくちなるすうがれうこのすまの浦まなる
ちりいでよもてごきの松、とうきて、よこさゆれば

ノ廿三終

あれうこそ、まことまこづらしのまもこそいひなを
とかるはしいるげまおぼひこれば、それはきうん人
つきまへ侍りなんとて、おしつこそいざしつ此
うこそ、おしのれうちつきやまつとのまへるを
とて、いとあまへうこきものくを色こきしめ
ねこまへり、屋まといふもれいとあかしうまかい
つけて、かこかづりつくろひこまへるさうかるりま
ぎはしうおいぎやうつきうり此對面のほどさ
しすぐいろとにもあらんし

源氏廿六夕の秋の姫のうまき

このごろ世の人のことゝさまうちのあはいとのく
いまは娘（手江志）だとゝまゝあれつゝいひちらすを源氏乃
おとゞきゝしめして（源公詞）どもあれくもあれひとゝう
まじくてこもりゐたらん女ごをなをざりのうゞと
まてもさだくりまもれめし出てうく人まこうを
いひつゝへらくこそこゝろえぬことなれいとき
ハさきしう抱し給あまるまゝふかきこゝろをも
たゞ○ぜもていぞ心まもたれも○ばかくもしさ
なきなるべしこゝろげのことゝもてなしうしまこそ
なぐらうなる抱なめれといとあしがり給（ゆゑ）かくるま
つけてもげまくこそあ（は）やとこゝろしながらも年

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用

人のあやしとおもひたんことにこそ
ぞ。そもやとていでたまふる。ひんがしの毎ハ志
ろうまおもしろさ笛の。さうまふきあそせ毎
ア。中将の例のあたりもなれぬどち。あそぶまぞ
あるる。頭の中将ことてあるれ。いとワざとも唱なる
孫れとて。立とまりぬふ。此をうそこ。むかえ
なん。いとかげすぐしさかぐる。犬まどぐめしれて
もれすりとのぬへれば。うちつれて三人来りぬ。
風の音秋まなりかりと罵しつる笛の。まぶれで
なんとて。此とひきさしてなるしきほどまひさ給
源中将。おんしさでうまいとおもしろく唱たる

頭の中将こころづかひして。いざしたてがたうすぎ
そしとあれば。弁の中将ひやうしうちいでたし
のびやかにうたふ。こゑすぐしまかひたりふる
人りぢりうたをなて。此ことは中将にゆづら
をたまひけげにかれちくおとゞのれけまをとと
り。おさくとらしず。それやうにおもしろし。
こゑのうちに。もれて音さくワく人もれし給ん
し。こゑひそさり月などうたしてを。さうなる
すぎたるひとは。忘ひなさのついでり。忘のだれぬ
こともしてとのたまへば。ひめざこもげにあそれと
きくのふ。こえをぬ中のれうぎりもろかなりまじき

857
117

抱なればまやこの忘ぐちをひとしれず（拍兄才）めにもみて
まもとじめたまへど（拍兄才）けてきたりぬるひらぬ
この中（拍）ねはうろのかぶりつくして、ちふすぢまぞ
ちりつゐでまもえ志のびもつまじき心ちすれど、
さ角くまてなして、おきくうちとけても、（和琴くす）うさ
はくる事

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-117

ガラス使用